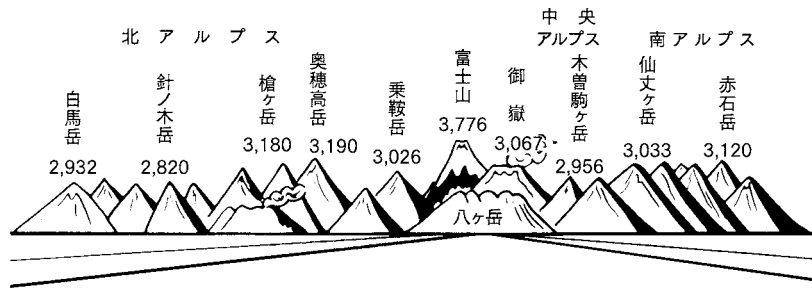


第 69 号

令和3年10月



砂防ニュースレター「長野」



杣沢砂防堰堤(木祖村)

目 次

| | | | |
|--------------------|---|-------------------------|--------|
| 県砂防協会総会は書面開催になりました | 2 | 着任のあいさつ：松本砂防事務所長 | 7 |
| 砂防事業功労者表彰授与式を行いました | 2 | 着任のあいさつ：多治見砂防国道事務所長 | 8 |
| 前副会長退任のあいさつ（前平谷村長） | 3 | 着任のあいさつ：天竜川上流河川事務所長 | 9 |
| 新副会長就任のあいさつ（佐久穂町長） | 3 | 長野市篠ノ井小松原の地すべり対策について | 10 |
| 南佐久支部オンライン要望を行いました | 4 | 令和3年8月の大雨による土砂災害について | 11 |
| 全国協会表彰の伝達式を行いました | 4 | 砂防堰堤効果事例 | 12, 13 |
| 前砂防課長異動のあいさつ | 5 | 砂防堰堤竣工：喜びの声(南木曾町長、木祖村長) | 14 |
| 新砂防課長着任のあいさつ | 5 | 土砂災害防止月間、赤牛先生の取組について | 15 |
| 着任のあいさつ：富士川砂防事務所長 | 6 | 長野県砂防課人事異動、県協会行事予定等 | 16 |

長野県治水砂防協会第83回通常総会は、書面開催になりました



生坂村長 藤澤 泰彦

第83回通常総会は、8月6日長野市内において開催する予定で準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染が全国的に急拡大している状況を踏まえ、急遽、書面開催に変更をさせていただきました。

また、総会に続いて予定していた三上幸三国土交通省水管理・国土保全局砂防部長様、大野宏之一般社団法人全国治水砂防協会理事長様のご講演等の企画も、誠に残念ながら見送らざるを得ませんでした。

直前の決定となり、会員始め関係者の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げますとともに、書面開催において各議案の採決が滞りなく行われたことを御礼申し上げます。

さて、8月13日からの大雨により岡谷市川岸地区で3名の尊い人命が失われる土石流災害が発生するなど県内各地で甚大な被害が生じました。本県では令和元年から3年連続で大災害に見舞われたこととなります。全国各地でも毎年のように甚大な災害が相次いでおり、大規模な自然災害のリスクが、益々高まっているように感じてなりません。

激甚化・頻発化する土砂災害に対して、私どもは、住民の生命と財産を守り、安心して暮らせる地域をつくるため、県土強靱化の取組を一層強化していかなければなりません。

砂防事業は取り組んだだけの効果が、しっかりと現れる事業であります。当協会においても、コロナ禍の難しい状況下ではありますが、引き続き、積極的に活動を展開してまいりたいと考えておりますので、今後とも会員及び関係者の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

長野県治水砂防協会 会長 藤澤 泰彦

小池正充前平谷村長様へ功労者表彰授与式を行いました



表彰授与式の様子



例年、長野県治水砂防協会通常総会で砂防事業功労者表彰を行ってまいりました。本年は、書面開催となったため、令和3年9月21日平谷村役場に於いて藤澤会長から小池正充前平谷村長様へ砂防事業功労者表彰の授与を行いました。

副会長退任のあいさつ



前平谷村長 小池 正充

2月4日をもって4期16年務めた平谷村長を退任し、併せて当協会副会長を退任いたしました。副会長在任中は、協会会員の皆様をはじめ県砂防課職員の皆さんに多大なるご支援とご協力を賜り心から感謝を申し上げます。また、藤澤会長より砂防功労者表彰をいただき重ねてお礼を申し上げます。

近年は、気候変動の影響と思われる自然災害が多発し、特に全国各地で土砂災害が発生しています。今年も7月に静岡県熱海市で、8月には岡谷市で土石流災害が発生し、尊い命と貴重な財産が失われました。

また県内においては、令和元年東日本台風により東北信地域を中心に多くの土砂災害が発生し、令和2年7月豪雨では県内で80件を超える土砂災害により甚大な被害が生じたと聞いています。お亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、被害に遭われた方々へは、お見舞い申し上げます。また、一日も早い復旧復興を心より願うところでございます。

今年は、伊那谷で発生した「三六災害」から、60年という節目を迎えており、当時の大災害の写真や復興した現在の状況を振り返ると、改めて砂防事業の必要性を痛感するところです。土砂災害は全国各地で頻発化・激甚化しており、生命と財産を守るための対策が一層強く求められています。加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策等、私たちを取り巻く環境が大きく変化しています。

今後も土砂災害から住民の生命と財産を守り、県民が安全で安心して暮らせる地域づくりを実現するため、国と県と市町村が連携しながら砂防事業の推進に取り組まれることを望んでおります。歴史ある長野県治水砂防協会のご発展と、藤澤会長をはじめ、会員皆さま方の益々のご健勝、ご活躍を心よりご祈念申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

新副会長就任のあいさつ



佐久穂町長 佐々木 勝

このたび、副会長を仰せつかりました、佐久穂町長の佐々木勝です。微力ではございますが、治水砂防事業の発展のため努力してまいり所存でございますので、よろしく願いいたします。

令和元年東日本台風は、県内では信濃川流域を中心に大きな被害をもたらしました。千曲川の最上流部にあたる南佐久郡下においても、河川の溢水や土砂災害等による甚大な被害が多数発生しています。

当町においても、人命にかかわる被害こそ発生しなかったものの、家屋の流出など各所で甚大な被害が発生しました。土砂災害発生箇所においては、迅速に災害関連緊急事業等を適用いただき、砂防堰堤を整備するなどの全面的な支援をいただいております。改めて感謝申し上げます。

近年、気候変動により自然災害が激甚化、頻発化していることを踏まえ、住民の生命、財産を守る土砂災害対策を一層推進する必要性について、災害を経験し改めて認識しています。

流域に目を向けますと、高度成長期以降に整備したインフラが今後一斉に老朽化することが見込まれます。老朽化が進む砂防関係施設においても計画的に維持管理・更新することにより、安全・安心の確保や将来の維持管理費用を抑制する予防保全につながるものと考えています。

地域に暮らす住民の命と暮らしを守ることは、我々自治体の長に課せられた最大の使命であり、安全安心な地域社会を実現し、持続可能な活力ある地域を創生するためには、防災・減災、国土強靱化の取組を一層推進することが必要となっています。

新型コロナウイルス感染症対策に取組むなか、地域の経済活動を早期に回復させるためには、まず住民の安全・安心を確保することが重要となります。

深刻な影響を受けている地域経済を下支えし、雇用の促進にもつながる土砂災害対策の推進に係る予算確保の働きかけに、全力をあげる覚悟でおりますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

長野県治水砂防協会南佐久支部から国土交通省砂防部へ オンライン面会方式による要望活動を行いました



写真左【前列右から：佐久穂町長、南相木村長、後列右から：川上村長、北相木村長、小海町長、南牧村長代理】
写真右【三上砂防部長】

県内市町村等で構成する長野県治水砂防協会（会長：藤澤泰彦生坂村長）の南佐久支部（支部長：佐々木勝佐久穂町長）から国土交通省水管理・国土保全局砂防部長へ、オンライン方式による要望活動を7月5日（月）佐久穂町役場会議室で行いました。

前駒ヶ根市長へ全国表彰の伝達式を行いました



写真：左から伊藤祐三駒ヶ根市長、杉本幸治前駒ヶ根市長、林孝標参事兼砂防課長

7月7日（水）駒ヶ根市役所で、全国治水砂防協会第36回協会表彰の伝達式を行い、林孝標参事兼砂防課長から杉本幸治前駒ヶ根市長様へ表彰状をお渡ししました。

前砂防課長異動のあいさつ



前長野県建設部砂防課長 藤本 済

会員の皆さんには、2年間熱い時間を共に過ごさせていただき心より感謝申し上げます。2年目に新型コロナウイルスのため、皆さんとお話しさせて頂く時間が激減したのは残念な思いでありました。一日も早いウイルスの終息を願っています。

この間、令和元年東日本台風・令和2年7月豪雨と2年続けて大きな災害に見舞われ、国の指導も頂きながら累計33カ所で災害関連緊急砂防等事業を実施すると共に流域の治水安全度向上に資する「流域を保全する土砂災害対策」を推進、加えて「赤牛先生派遣事業」等による地域防災力向上にも努めました。また、協会事業の砂防課80年記念「長野県砂防史」作成にあたっては、長野県の砂防を砂防課職員皆が改めて学ぶ貴重な機会でありました。

気象災害の激甚化は留まることを知らず、大きな災害が毎年のように発生しています。防災に関わる私たちは、今まで以上に事前の備えと迅速な対応により地域の安全安心を具現化しなければなりません。会員の皆様には、ご健康に留意され、長野県の砂防に対し、引き続き叱咤激励と愛情あるご指導・ご鞭撻頂くことをお願いし、異動にあたってのご挨拶といたします。

新砂防課長着任のあいさつ



長野県建設部参事兼砂防課長 林 孝 標 はやし たか すえ

この4月に参事兼砂防課長に着任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

前任地は、九州地方整備局企画部で、各事業横断的な業務や調整する役割を担っておりました。さらに前は、国土交通省砂防部をはじめ、奈良県など、国・地方などの様々な立場で砂防行政に係わってきたことから、これらの経験を活かして、長野県の安全・安心の確保、更なる砂防行政の発展に努めてまいります。

長野県内の勤務は初めてのため、着任以降、県内各地に赴き、様々な地物を見ることで、新たな知見を得ることばかりですが、特に認識を改めて強くしたのは、日本有数の土砂災害が発生しやすい地形・地質です。

3,000m級のアルプスから流出する多量の土砂、フォッサマグナエリアを中心とする日本最多の地すべり危険箇所、活火山も多く、中央構造線沿いの変成岩等も含め、県内の土砂生産のポテンシャルの大きさに身の引き締まる思いを抱いております。

一方で、砂防行政を取り巻く環境は刻々と変化しています。県内はもちろん、全国的にも災害が頻発化・激甚化しており、施設整備のスピード感など整備のあり方を考えさせられます。また、警戒避難のあり方については、より個人の行動にフォーカスしており、県民の一人一人が防災を「わがこと」と認識していただく必要性が高まっています。さらに、デジタルを活用した砂防工事等の働き方改革も喫緊の課題です。

このような変化や課題には、事務所とともに砂防課職員一丸となって対応していくことはもちろんですが、円滑な砂防事業の推進には、何よりも会員の皆様のご理解・ご協力は必要不可欠です。できるだけ早く会員の皆様のところへ赴き、意見交換させていただき、砂防行政を一歩でも前進したいと思っておりますので、今後ともご指導の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

着任のあいさつ



国土交通省 関東地方整備局 富士川砂防事務所

所長 植野 利康

本年4月1日付けで富士川砂防事務所長として着任しました植野利康です。多治見砂防国道事務所では長野県治水砂防協会の皆様には大変お世話になりました。

富士川砂防事務所勤務となり引き続きお世話になりますが、宜しくお願いします。

当事務所は、富士川水系の釜無川流域と早川流域における、長野県富士見町、そして山梨県北杜市、韮崎市、南アルプス市、早川町において事業を実施しております。

事業実施につきましては、管内各市町における土石流等による直接的な土砂災害を防止するほか、富士川本川へ流入する土砂を調節して河床上昇に伴う土砂・洪水氾濫から流域市町や甲府盆地を守り、安全・安心の確保に努めるため、つぎの3点を基本方針として掲げております。

① 根幹的な土砂災害対策施設の整備

大規模な荒廃地含む荒廃地からの土砂の生産・流出をコントロールし、安全を確保するため、流域で根幹をなす砂防施設の整備を推進します。

今年度は、釜無川流域では、支川武智川において沿川集落の保全するための床固群や、支川黒川において崩壊地からの土砂流出を抑制する砂防堰堤、また、土砂流出の著しい早川流域では、支川内河内川における砂防堰堤及び支川春木川（池の沢）等において砂防施設等の整備を推進します。

② 要配慮者利用施設を保全するための施設整備

土砂災害時に犠牲となり易い方々が利用する福祉施設などを守るための砂防施設を整備します。

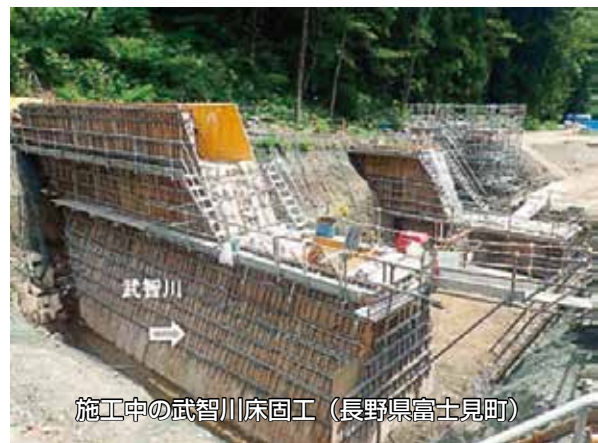
今年度は、昭和34年に大きな災害が発生した釜無流域の支川大武川及び、早川流域の支川塩島沢等において、砂防施設の整備を推進します。

③ 総合的な土砂災害対策を推進

地震や洪水による深層崩壊や天然ダムの形成といった大規模土砂災害などから尊い人命を保全するためのソフト対策として、大規模土砂災害発生を想定した訓練を県及び市町と合同で行います。

令和3年度における長野県関係の事業として、武智川下流床固群の整備、釜無川流域左岸砂防施設改築、釜無川上流左岸山腹工、釜無川流域右岸砂防施設改築などの事業を実施してまいります。

地域の「いのち」と「くらし」を守るため、砂防事業に全力で取り組んでまいります。今後ともご理解とご協力のほどお願いいたします。



施工中の武智川床固工（長野県富士見町）

着任のあいさつ

国土交通省 北陸地方整備局 松本砂防事務所

所長 森田 耕司



今年、4月1日に北陸地方整備局松本砂防事務所長に着任しました森田耕司と申します。私は、大阪市出身で、平成11年に建設省（現国土交通省）に入省し、これまでに直轄の砂防事務所では、富士川砂防、広島西部山系砂防（太田川河川）、本省では、都市局都市安全課、水管理・国土保全局砂防計画課、防災課災害対策室、出向として、愛知県、石川県、富山県のほか、林野庁治山課や土木研究所火山・土石流チームに勤務してきました。就職するまですべて関西で過ごしてきましたが、各地を転々として、すっかり関西弁が抜けた今では、よく出身地を聞かれるようになりました。

長野県内の勤務は初めてですが、松本には3年前の富山県砂防課長時代に、「牛伏川階段工完成100周年記念行事」に参加させていただいており、牛伏川のフランス式階段工や石積み堰堤を見させていただき、意見交換会では富山の石工について、いろいろと聞かれたことを覚えています。

そのほかにも、大学3年生のときに、夏休みの実習生（今でいうインターン？）として、2週間ほど松本砂防工事事務所でお世話になりました。当時の松本砂防の古い木造庁舎の宿直室に1週間、中之湯温泉に1週間泊まりながら、上高地の河原を毎日歩き、現場や仕事を見せていただいたことが、砂防の仕事がしたいと意識し始めたきっかけです。今回、20年以上経って、松本砂防事務所への内示をいただいた時には、感慨深く、また、松本砂防との縁を感じていました。

一方で、北陸ブロックや北信越ブロックに属する石川県や富山県にそれぞれ3年、計6年間在籍していたことから、これまでも長野県治水砂防協会はじめ、皆様には大変お世話になりました。まだ不慣れで、行き届かないところも多々あるかと思いますが、引き続き、よろしくお願ひします。

さて、松本砂防事務所は、皆様ご存じのように、信濃川上流の梓川流域、高瀬川流域、並びに姫川流域の砂防事業を担当しており、管内には中部山岳国立公園のほか、特別名勝・特別天然記念物に指定されている上高地、白骨温泉などの日本でも有数の観光地があります。私も、松本に来て単身赴任になってからは、休日、カメラ片手にでかけていますが、牛伏川のフランス式階段工や源太郎砂防堰堤などの砂防施設は、豊かな自然に囲まれており、これからも四季折々の表情を見せてくれるのが、楽しみです。

ただ、昨年からは世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルスの感染拡大により、管内の観光地は大きなダメージを受けていると聞いており、活気ある地域となるよう、砂防事業でも支援していきたいと思っています。

また、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、松本砂防事務所でも在宅勤務やTeams等を使ったチャット、web会議を導入し、移動時間の短縮や仕事の効率化にも取り組んでいます。残念なのは、これまでのように、多くの方と対面で（時には飲みながら）、意見交換する機会がほとんどなくなってしまったことです。

その分、アンテナを高く、県や地域、関係機関とは連携を密に、協力的な関係を構築・深化させていけるよう取り組んでいきたいと思っていますので、これからも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

最後に、長野県治水砂防協会の益々の発展と、会員皆様方の地域の安全・安心をご祈念申し上げます、私の着任挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。



上高地河童橋



源太郎砂防堰堤（白馬村神城）



番所大滝（乗鞍高原）

着任のあいさつ

国土交通省 中部地方整備局 多治見砂防国道事務所

所長 加藤 仁志



本年4月1日付で多治見砂防国道事務所長として着任しました加藤仁志です。長野県治水砂防協会の皆様には、当事務所の木曾谷における直轄砂防事業推進に対しまして、様々な面でお世話になっております。この場をお借りして御礼を申し上げますと共に、今後とも、引き続き、よろしくお願い申し上げます。

さて、長野県は、県土が東西南北に広く、各地域で違いはあるものの、急峻な地形と脆弱な地質条件であり、気象条件的にも、土砂災害が発生しやすい県土であると考えられます。この長野県において、全国に先駆け、また、活発に継続して活動されておられます長野県治水砂防協会の皆様に敬意と感謝の念を表しますと共に、長野県の土砂災害の防止に携わる機会を得たことに、やりがいを感じ、身の引き締まる思いです。

さて、多治見砂防国道事務所は長野県上松町、大桑村、南木曾町の木曾川水系左岸側において令和2年度補正予算および令和3年度当初予算を中心に、約20億円余で砂防事業を推進しています。

上松町では、上流に崩壊地を抱える滑川流域において連続した床固工を配置する滑川遊砂工整備の他、大沢第1砂防堰堤、板橋沢第1砂防堰堤の整備を進めています。

大桑村では、平成25年8月の豪雨で国道19号に土砂が流出するなどの災害が発生した下在蛇抜沢およびその周辺の砂防堰堤工群や、野尻公民館等の保全対象のある太田第1砂防堰堤等の整備を進めてまいります。

南木曾町では、土砂流出の著しい溪流である和合蛇抜沢汎砂地工の整備や、地蔵沢第1砂防堰堤、与川第1砂防堰堤等の整備を進めています。

また、平成26年9月27日に噴火災害が生じた御嶽山について、「御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画」を策定しておりますが、関係行政機関との連携をさらに緊密にするために既存計画を改訂しました。今回の改訂では、これまでより詳細な地形データを活用するなど、より実態に沿った検討が可能となっています。

今年も、例年のように、当事務所管内をはじめ、長野県内各地でも、大雨による土砂災害が発生しています。

木曾地方においても、特に8月13日から大雨により、各所で災害が発生しました。木曾町では、河川護岸の損傷といった河川災害が発生しました。この災害に対する長野県木曾建設事務所による緊急対策に際し、当事務所では、備蓄しておりましたコンクリートブロックの貸出を行いました。また、上松町の滑川流域において土砂移動が生じましたが、除石によって事前に堆砂容量を確保していた事が功を奏し、滑川第1砂防堰堤で全量捕捉され、下流への被害を防止しております(図1)。平成30年に土砂移動が生じた大桑村の伊奈川流域矢垂沢では、その後設置したワイヤーネットによる土砂捕捉し、村道への被害を防いでいます(図2)。

多治見砂防国道事務所では「流域治水」を推進し、頻発する土砂災害から命を守る一環として、防災教育にも注力しています。この取組の一例として、木曾南部の小学校を対象に、砂防教室を実施しています(図3)。砂防教室では、小学4年生の皆さんに「地域の災害リスク」や「避難に必要な情報・判断・行動」について座学だけでなく、模型実験なども実施し学んでもらっています。砂防教室で得た知識が今後、地域全体における避難の実効性が高まることを期待しております。

今後とも、木曾地域の安全・安心の確保のため、直轄砂防事業に担当職員一同、全力で取り組んでまいりますので、引き続きのご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます、私からの挨拶に代えさせていただきます。



図2 矢垂沢砂防堰堤に設置されたワイヤーネットによる土砂補足

図3 砂防教室で模型実験の様子【昨年度、南木曾小学校開催時】

着任のあいさつ



国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所
所長 佐藤 保之

このたび4月に、天竜川上流河川事務所に参りました。

私は初めての勤務地が松本砂防工事事務所（当時）であり、その後も、富士川砂防事務所（富士見町も管内）や関東地方整備局地域河川課（長野県も担当）などを経験させていただき、長野県治水砂防協会及び長野県庁の皆様には、大変お世話になりました。そして、今度は伊那谷でお世話になります、よろしくお願ひ致します。

三六災害から60年、リニアを迎えて飛躍する伊那谷を守る砂防事業

天竜川上流河川事務所は、長野・静岡県境から昭和橋（辰野町）までの天竜川本川区間及び小渋川、三峰川等一部支川区間の河川改修や河川管理、三峰川、小渋川、太田切川、中田切川、与田切川、片桐松川、新宮川、遠山川流域における砂防事業、天竜川中流地区（阿南町・天龍村）、此田地区（飯田市南信濃）における地すべり対策を実施しています。

中央アルプスと南アルプスに挟まれた伊那谷は、脆弱な地質、急峻な地形と相まって、洪水や土砂災害といった幾多の災害を引き起こしてきました。過去には昭和36年の大規模な土砂災害・洪水災害、昭和58年の洪水災害、また近年では平成18年7月豪雨災害等がありましたが、これらの自然の脅威に対処すべく、流域市町村を始め、地域の皆様や建設業界の皆様等、多くの関係者の支援を受けて河川・砂防事業を進めてまいりました。

今年の8月梅雨前線による豪雨により、岡谷市において土石流災害が発生し、3名の方が亡くなっております。亡くなった方々のご冥福をお祈りするとともに、災害復旧に携わっている皆様に敬意を表するものです。

当事務所管内においても、8月からの豪雨により太田切流域において、最大時間雨量47mm、総雨量546mmの豪雨を記録しました。この豪雨により太田切支川の黒川において、大量の土砂・流木が発生しましたが、令和2年に「防災・減災、国土強靱化のための三カ年緊急対策」によって黒川第4砂防堰堤により約44,000m³の土砂を捕捉するなど、効果を発揮しております。今回の豪雨は、戦後最大の災害である「三六災」を超えるものでしたが、これまで実施してきた砂防施設により、人的被害は発生しておりません。しかしながら、今後、気候変動による大雨の激化も想定されることから、計画的に砂防施設の整備を行っていく必要があると考えております。

天竜川流域では再生可能エネルギーの導入、三遠南信自動車道やリニア中央新幹線の整備など、地域のさらなる飛躍・発展が期待されています。

他方、今後、気候変動の影響で、水災害の激甚化が想定されることから、堤防や砂防堰堤といったハード対策に加え、防災教育、防災知識の普及やきめ細やかな情報発信など減災に向けたソフト対策の取り組みも推進し、流域のあらゆる関係者が協働して、流域全体で行う持続可能な水災害対策である「流域治水」を推進してまいりますので、引き続き、皆様の一層のご支援とご協力をお願い致します。

長野市小松原で発生した地すべり災害について

地すべりの概要

- 発生日 令和3年7月6日（火）
- 規模 幅180m、長さ240m、推定移動土塊量約40万 m^3
- 被害
 - ・人的被害なし
 - ・国道19号が発生日から8日間全面通行止め（以後、昼間6～21時まで片側交互通行へ移行）
 - ・民間の工場倉庫に崩壊土砂が流入
 - ・地すべり末端の沢の湛水



地すべり全景写真（7月6日撮影）

これまでの長野県（土尻川砂防事務所）の対応

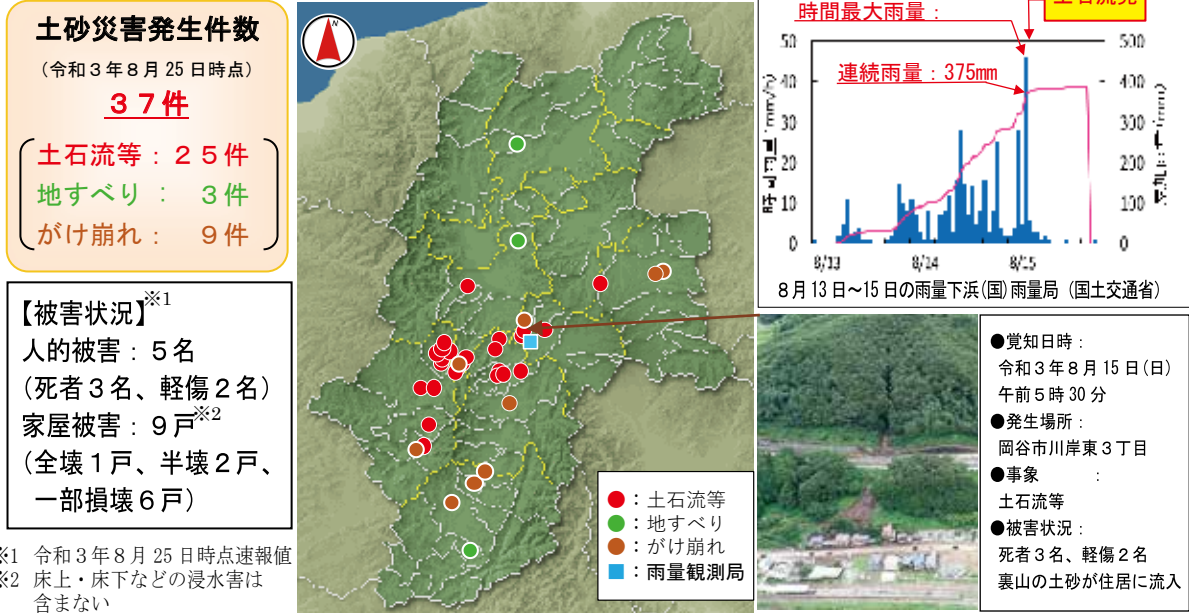
- 7月6日 緊急調査実施、湛水池へ排水ポンプ設置
- 7月7日 専門家（国土技術政策総合研究所、土木研究所）による現地調査実施
- 7月8日 計測機器設置開始（監視カメラ、伸縮計、傾斜計、GPS等）
- 7月10日 調査ボーリング着手
- 7月19日 応急水抜きボーリング着手
- 7月21日 災害関連緊急地すべり対策事業採択
採択事業費：10億1,100万円
対策工：横ボーリング工、集水井工、鋼管杭工等
- 8月2日 土木研究所現地調査実施（コア確認による想定すべり面、恒久対策工等の助言）
- 9月13日 土木研究所現地調査実施（コア確認による想定すべり面、発生メカニズム等の助言）
- 9月21日 集水井工（3基）の工事を契約
- 今後、令和3年度内に鋼管杭工に着手する予定



令和3年8月の大雨による土砂災害について

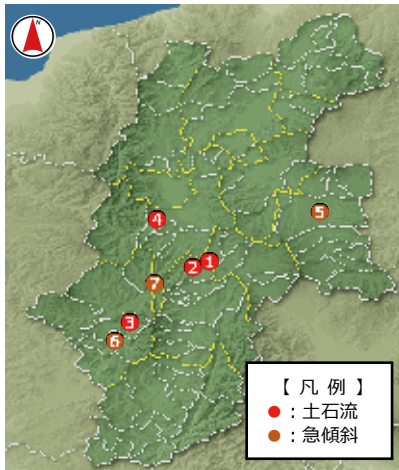
1 土砂災害の発生状況について

長野県内では、8月13日から大雨により多くの土砂災害が発生しました。この一連の大雨により、記録的な大雨となったところもあります。



2 災害関連緊急砂防等事業

土砂災害発生地域の二次災害を防止するため、砂防及び急傾斜の土砂災害対策を緊急的に実施します。(表は9月末現在の採択済み箇所の一覧)



| 番号 | 渓流名 地区名 | 市町村名 | 箇所名 | 主な対策工 | 事務所 |
|------------|----------------|------|--------------|-------|-----|
| 土石流 | | | | | |
| ① | なかおおくほ 中大久保 | 岡谷市 | かわがし 川岸東 | 砂防堰堤工 | 諏訪 |
| | おおくほ 大久保 | 岡谷市 | かわがし 川岸東 | 砂防堰堤工 | |
| ② | おおくわがわ 大沢川 | 辰野町 | おの 小野 | 堆積工 | 伊那 |
| ③ | みずさわがわ 水沢川 | 松本市 | かみがいと 上海渡 | 砂防堰堤工 | 松本 |
| 急傾斜 | | | | | |
| ④ | きたがき 北沢 | 佐久市 | とまわ 常和 | 法面对策工 | 佐久 |
| ⑤ | しもふり 下落 | 大桑村 | いげ 殿 | 法面对策工 | 木曾 |
| ⑥ | じょう 城 | 塩尻市 | ならい井 | 法面对策工 | 松本 |



令和3年8月の大雨における砂防堰堤の効果事例

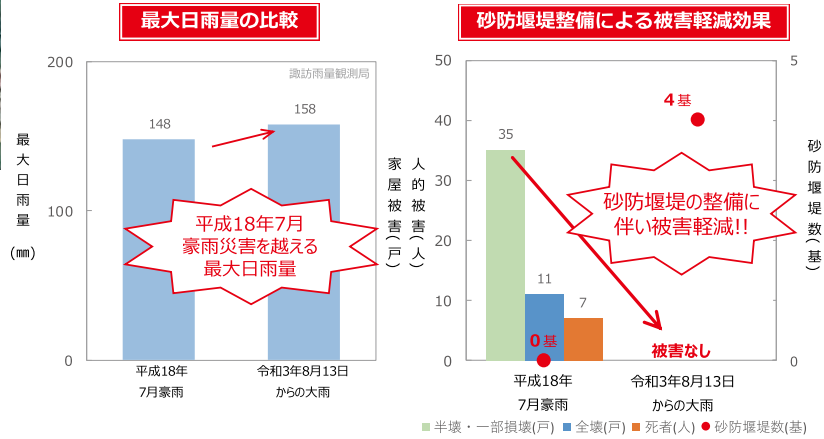
おた い さ わ が わ

小田井沢川 岡谷市 湊

平成18年7月豪雨災害後に整備した砂防堰堤が土石流を捕捉



災害発生日： 令和3年8月15日
 降雨状況： 連続雨量386mm
 保全対象※： 人家90戸、県道
 施設効果： 土石流、流木を捕捉
 下流地区への被害を未然に防止



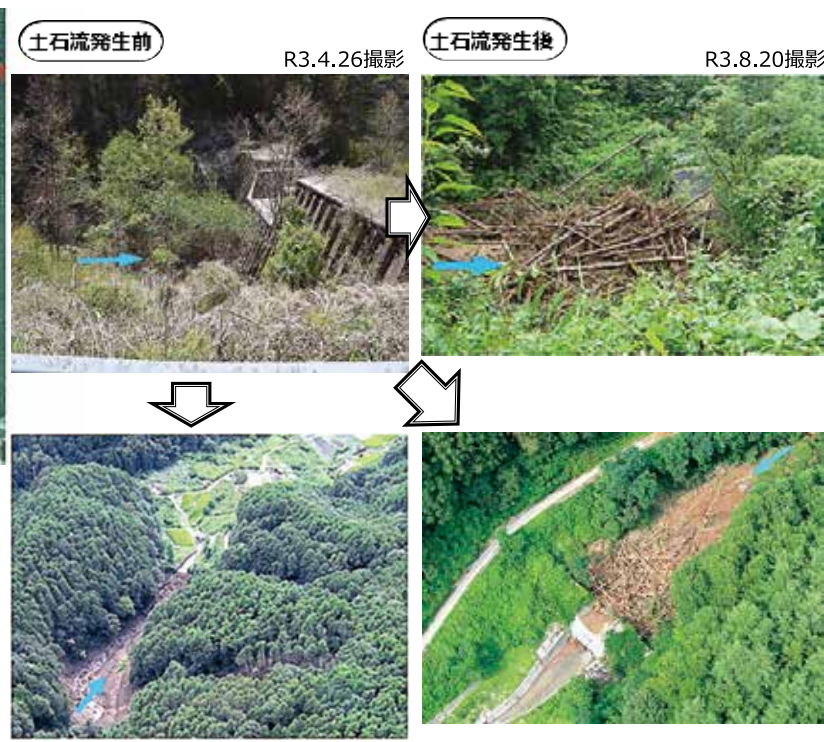
ほんざわがわ

本沢川 岡谷市 川岸鮎沢

平成18年7月豪雨災害後に整備した砂防堰堤が土石流を捕捉



災害発生日： 令和3年8月15日
 降雨状況： 連続雨量386mm
 保全対象※： 人家57戸、中央自動車道
 JR中央本線、県道
 施設効果： 土石流、流木を捕捉
 下流地区への被害を未然に防止



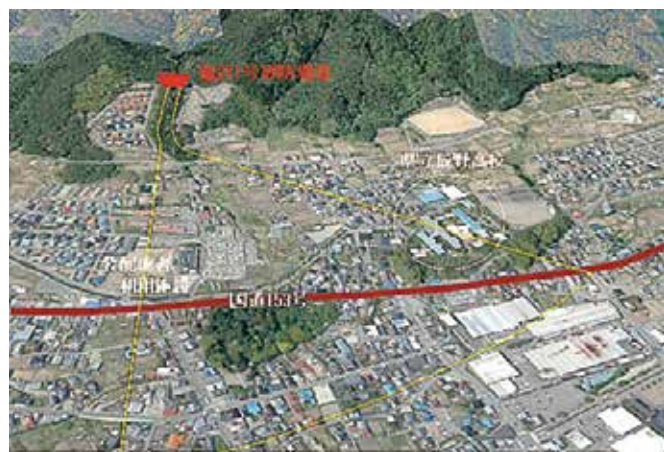
※ 当該溪流の土石災害警戒区域内

令和3年8月の大雨における砂防堰堤の効果事例

にれさわ

楡沢 辰野町 伊那富

防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策により整備した砂防堰堤が土石流を捕捉



土石流発生前

楡沢1号砂防堰堤 R3.3月完成



土石流発生後



災害発生日： 令和3年8月15日（推定）
 降雨状況： 連続雨量388mm
 保全対象※： 人家187戸、国道153号
 県立辰野高校、要配慮者利用施設
 施設効果： 土石流、流木を捕捉
 下流地区への被害を未然に防止

事業概要 砂防堰堤工 H=9.0m L=38.0m
 施工期間 令和元年9月～令和3年3月（当初計画より約1年前倒し）

ほとけざわ

仏沢 木祖村 向吉田

砂防設備等緊急改築事業により整備した砂防堰堤が土石流を捕捉



土石流発生前

H30.12月撮影



土石流発生後

R3.8.27撮影



災害発生日： 令和3年8月15日（推定）
 降雨状況： 連続雨量401mm
 保全対象※： 人家7戸、JR中央本線
 施設効果： 土砂流を捕捉
 下流地区への被害を未然に防止

事業概要 砂防堰堤改築工 H=13.0m L=44.0m
 施工期間 平成29年12月～平成30年12月

砂防設備等緊急改築事業

- 既設の砂防設備について、緊急改築を行うことで既存の砂防設備を有効活用することにより、地域における安全の向上を図る
- 昭和52年以前の技術基準により設計されており、土石流に対して構造物の安全性、安定性が確保されていない砂防設備が対象

※ 当該溪流の土砂災害警戒区域内

岩戸沢砂防堰堤竣工 喜びの声 南木曾町長 向井 裕明



令和3年の春をもって岩戸沢砂防えん提が見事に完成する運びとなりました。地元として誠に嬉しい限りです。岩戸沢のある沼田地区は南木曾中学校や蘇南高校はじめ町の文教地区となっていますが、木曾川右岸は地質が悪く巨岩がごろごろして何かにつけ防災工事が欠かせない地域です。昭和28年には岩戸沢の隣に位置する伊勢小屋沢では、蛇抜け（じゃぬけ）が発生して3名の尊い生命が犠牲となり、慰霊碑として建立された「悲しめる乙女の像」は今も町民の防災の礎として私達を見守ってくれて

います。

今回の工事に当たっては、急峻で限られた条件の中で立派なえん提を築いて頂くと共に、地区の大切な白山神社をも移転して残して頂きました。地域にとっては、この上ない喜びの中で竣工を迎える事ができました。これも計画から施行まで長期間に渡ってご尽力頂いた長野県はじめ地権者、関係者の皆様のお蔭と深くお礼を申し上げます。

安心して暮らせる地域となる事に心から感謝を申し上げ、併せて一日も早くコロナ禍が収束することを願いながら喜びの声と致します。



岩戸沢砂防堰堤

杣沢砂防堰堤竣工 喜びの声 木祖村長 唐澤 一寛



令和2年度末をもって杣沢砂防堰堤が長野県の事業主体のもと、見事に完成する運びとなりました。

平成30年7月の豪雨により、いつもは水さえ無い杣沢に土石流が発生、原村地区の住民は近くの公民館へ避難し不安な一夜を過ごしましたが、幸いにも人的な被害は無く、しかしながら土砂は家の中まで押し寄せ田も土砂に埋もれ、荒れた山肌を見ると恒久的な対策が必要と考え、すぐ長野県建設部及び木曾建設事務所へ対策

のお願いをしてみました。

長野県の絶大な御理解のもと、災害関連緊急砂防事業の導入により短期間で、集中的な投資をいただき、見事に竣工を見ることが出来ました。このことは計画から施工までご尽力いただいた、長野県をはじめ、地権者、関係者の皆様のお蔭と深くお礼を申し上げます。

安心して暮らせる地域づくりへのご理解に心から感謝を申し上げ、村長の喜びの声と致します。



記念写真：杣沢砂防堰堤 堰銘板にて

6月土砂災害防止月間の取組について

土砂災害防止月間の取組にあたっては、市町村の皆様にご協力いただき、防災訓練や危険箇所パトロールを実施しました。



住民参加型の防災訓練
(6月6日：小布施町)



土砂災害危険箇所パトロール
(6月10日：安曇野市)



防災講演会
(6月13日：朝日村)



避難経路の点検
(6月16日：小谷村)



土砂災害危険箇所点パトロール
(6月22日：坂城町)



土砂災害危険箇所パトロール
(6月28日：伊那市)

砂防ボランティアによる地域での防災教育事業(赤牛先生派遣事業)

災害の激甚化に伴い、住民の命を守るための警戒避難体制強化が課題となっております。長野県では令和元年度から「自らの命は自ら守る」意識を持つことを目的に県内各地の公民館や小中学校にて防災教育事業を実施。県内全域に在住する砂防ボランティア協会員の皆さんを“赤牛”先生として地域の災害特性、災害伝承を身近な教訓として継続的な防災教育を展開します。

赤牛先生とは・・・
各地に語り継がれる「赤牛伝説」は、その地域特有に災害への忠告であるとの学術論文を参考に、防災教育の講師を「赤牛先生」と名付けました。
(長野県立歴史館長 笹本正治氏の論文より参照)

3年目を迎える今年度は、コロナ禍の対応としてWeb会議ツールを用いた“オンライン赤牛先生”も実施しております。



オンラインによる防災講座
【塩尻市榑川中学校】



参観日に保護者への防災講座
【阿南町大下条小学校】

令和3年4月 長野県建設部 砂防課・人事異動

◎転入

参事兼砂防課長へ
林 孝 標 (九州地方整備局)
企画幹兼地すべり係長へ
青 木 能 健 (千曲建設事務所)
総務係へ
伊 藤 和 貴 (義務教育課)
課長補佐兼調査管理係長へ
伴 野 光 彦 (松本建設事務所)
課長補佐兼砂防係長へ
矢 口 泰 秀 (須坂建設事務所)
砂防係担当係長へ
小笠原 和 吉 (危機管理防災課)
砂防係へ
竹 内 公 太 (木曾建設事務所)
砂防係へ
藪 原 一 真 (犀川砂防事務所)
地すべり係 担当係長へ
井 原 一 馬 (飯田建設事務所)
地すべり係へ
柳 澤 翔 太 (諏訪建設事務所)

◎転出

松本建設事務所長へ
藤 本 濟 (砂防課長)
技術管理室 主任専門指導員へ
坂 口 一 俊 (企画幹兼地すべり係長)
上田振興局 総務管理課へ (青木村派遣)
山 田 佳 代 (総務係)
松本建設事務所 維持管理課長へ
青 柳 孝 博 (課長補佐兼調査管理係長)
上田建設事務所 整備課へ
藤 井 隆 男 (課長補佐兼砂防係長)
企業局 電気事業課へ
矢 澤 祥 道 (砂防係担当係長)
下伊那南部建設事務所 整備課へ
北 原 和 樹 (砂防係)
国土交通省大臣官房へ
渡 邊 輝 嗣 (砂防係)
飯田建設事務所 整備課へ
鈴 木 祥 一 (地すべり係担当係長)
松本建設事務所 整備課へ (地すべり係)
池 部 功 一 (地すべり係)

長野県治水砂防協会 令和3年 行事等経過・予定

| | |
|------------------|------------------------------------------|
| 7月1日(木) | 第8回土砂災害対策実務者講習会 砂防会館別館1階シェーンバッハ・サボー利根 |
| 8月6日(金) | 長野県治水砂防協会第83回通常総会：書面開催 |
| 10月28日(木)～29日(金) | 砂防現地視察と討論会：中止 |
| 11月18日(木) | 全国治水砂防促進大会 砂防会館別館1階シェーンバッハ・サボー利根 |
| 〃 | 長野県治水砂防協会要望活動：衆・参議院会館、国土交通省、財務省 |

編集後記



長野県治水砂防協会
書記 市村 由美



令和3年4月から長野県治水砂防協会書記として採用していただきました。

高橋書記に、協会の仕事を一から教えていただいているところです。何分初めての事ばかりで至らない点もありますが、ご指導のほどよろしく願いいたします。

※令和3年度通常総会が書面開催となり、初めての事で驚きました。この機会に皆様と会う事も出来ず誠に残念でした。コロナ禍も、もう暫くは用心が必要です。コロナ終息を願いつつ。皆様におかれましては、お体ご自愛下さいませ。
書記 高橋千代子

●第69号 編集・発行 長野県治水砂防協会 〒380-8570 長野市大字南長野幅下692-2 長野県庁砂防課内
TEL：026(232)0144 FAX：026(233)4029 E-mail：n-sabo@sky.plala.or.jp